

**2025年3月期 第1四半期決算
テレフォンカンファレンス 質疑応答要旨**

日 時：2024年8月8日（木）19：00－19：45（説明：20分、質疑応答：25分）

形 態：電話会議

説明者：代表取締役社長・COO

松林 良祐

取締役 執行役員 女性活躍推進、人事、広報・IR担当

井上 喜久栄

理事 広報・IR推進室長

植杉 文

<全社>

■対計画

Q：24年度第1四半期の実績について、セグメント別に計画の進捗状況を教えてください。

A：売上収益面については、オンサイトガス供給において電力コストに連動し、ガスの販売価格が下落した影響を受けたデジタル&インダストリー以外、すべてのセグメントが計画通りの進捗でした。営業利益については、すべてのセグメントが計画通りの進捗でした。

■為替影響

Q：第1四半期実績における為替影響を教えてください。また足元、急速に円高が進みましたが、その影響はありますか。

A：第1四半期実績において、為替に関して大きな影響があったとは認識していません。また、足元の円高の状況が直ちに当社の業績へ影響を及ぼすものではありません。今後も、当社の業績に影響を与える局面になった場合には、価格改定を行うなど影響の低減に努めて参ります。

<事業別>

■デジタル&インダストリー

Q：半導体市況の回復が遅延しているというコメントがありましたが、他のところでカバーできていますか。それとも計画が未達になる可能性がありますか。

A：半導体市況の回復は遅れている状況ですが、すべての分野で遅れているわけではなく、製品ごとにばらつきがあります。ガス供給、特殊材料は前回決算発表時より年度後半からの回復を見込んでいたことから、現時点では計画に対してマイナス影響はありません。また、消耗品、ガス、化学品は市況低迷の影響を受けていますが、九州を中心に半導体工場の工事が進んでいることから機器・工事案件を獲得して、今期計画を達成していきたいと考えています。最先端分野だけでなくレガシー半導体の工場からの引き合いもあるので、収益につなげていきます。

Q：国内の産業ガスの価格改定の状況について、教えてください。

A：各種コストの上昇を背景に、価格改定は継続して実施しています。第1四半期は、電力コストが下落基調で推移する中で、オンサイト供給以外のガスの販売価格を維持したことが、営業利益の拡大につながりました。

Q：2023年度は四半期ごとにインダストリアルガスユニットの収益性が改善していましたが、当第1四半期は収益性が低下した印象を受けました。何か特殊要因はありますか。

A：23年度は、第1四半期に炭酸ガスの設備トラブルの影響があったほか、電力コストが年度末にかけて段階的に下落したことが四半期ごとの利益拡大につながりました。加えて、機器・工事案件は第2四半期から第4四半期にかけて高まる季節性もあるため、第1四半期は年間で最も利益の水準が低い期間となります。なお、当第1四半期において、特殊要因はございませんでした。

Q：通期の営業利益計画が380億円となっていますが、第1四半期の進捗が遅れている印象を受けました。計画に対する進捗および第2四半期以降の見通しについて教えてください。

A：第1四半期の営業利益は、ほぼ計画通りの進捗です。
ガスの販売は年間を通じて安定しています。一方、機器・工事（エレクトロニクス関連も含む）は年度後半にかけて売上が拡大するほか、機能材料についても第1四半期に比べると第2四半期に改善する季節性があると認識しています。

■アグリ&フーズ

Q：野菜の作付けは平年通りでしょうか。また、飲料の受託製造は期待している状況でしょうか。猛暑の影響などがあればコメントをお願いします。

A：北海道の作付けは現在進行中であり、現段階で判断は難しいですが、業績への大きなマイナス影響はないと認識しています。また、猛暑の影響により、飲料の受託製造を行っているゴールドパックは、好調だった前年同期の水準を上回りました。

■その他（グローバル&エンジニアリング）

Q：その他事業におけるグローバル&エンジニアリングについて、会社計画に対する進捗について教えてください。

A：第1四半期の業績については計画通りに推移しております。グローバル&エンジニアリングには、高出力UPS（無停電電源装置）事業、インドにおける産業ガス事業、米国における産業ガス・機器・エンジニアリング事業が含まれています。ガス関連については安定していますが、高出力UPSや機器販売については、受注や工事進捗の状況により変動があるため、今後しっかり受注を積み上げていき、事業拡大につなげていきます。

以 上